

麦類の生育ステージ予測シート

水田利用部 水田輪作班 TEL:0229-26-5106

研究の目的

麦類の追肥や赤かび病防除は適期に行うことが重要ですが、麦類の生育ステージは年次間差が大きいいため、事前に作業計画を立てることが困難でした。

これまで麦類の減数分裂期・出穂日・開花期の各生育ステージを予測するためには、幼穂長を測定し、煩雑な計算を行う必要がありましたが、これらの計算を自動化して簡易に生育ステージを予測できる「麦類の生育ステージ予測シート」を作成しました。

研究成果

本予測シートはExcel(Microsoft®Office)のワークシートであり、適用できる品種は、大麦が「シュンライ」及び「ミノリムギ」、小麦が「あおぼの恋」、「シラネコムギ」及び「ゆきちから」です。

生育ステージを予測したいほ場に最も近い①アメダスポイントと、作付けしている麦類の②品種をプルダウンメニューから選択し、③調査月日の下のセルに幼穂長（図1）を入力することで、減数分裂期、出穂期、開花期の④予測結果が表示されます（図2）。

追肥には減数分裂期及び出穂期の予測月日が、赤かび病防除には開花期の予測月日が適期作業の目安になります。



図1 幼穂長の測定位置

	A	C	AP	AQ	AR	AS	AT	AU	AV
1	麦類生育ステージ予測シート (Ver.3.0)		宮城県古川農業試験場						
2									
3	① ↓アメダスポイントを選択して下さい								
4	古川		アメダス古川						
5	② ↓品種を選択して下さい								
6	シュンライ		品種「シュンライ」						
7	③ 調査月日の	予測開始日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日
8	下のセルに	幼穂長				8.70			
9	幼穂長を入力								
10	して下さい→								
53									↓予測結果
54	④ 予測結果→		減分期			4月23日			幼穂長(単位: mm)を入力して下さい
55	が表示されます。		出穂期			5月1日			
56			開花期			5月6日			

図2 生育ステージの予測例

利活用の留意点等

予測に用いる幼穂長は、ほ場内の生育が中庸な株の主茎5本程度の平均値を用います。なお、幼穂長が短い場合ほど、測定誤差が予測精度に与える影響が大きくなるため、幼穂長が5mm未満の場合には、実体顕微鏡を用いて0.1mm単位まで測定して下さい。

本研究は農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」により実施しました。

より詳しい内容は「普及に移す技術」

第91号(平成28年発行)「麦類の生育ステージ予測シート」をご覧ください。

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/91sankoushiryou7.html

